

## 第14回ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン (WNJ) 全国会議 in 愛知

2月22日、23日に名古屋で開催された全国会議に協会からは3人が出席しました。ワーカーズ・コレクティブのことをよくご存じの田中夏子先生が基調講演で、分科会も担当されるということで楽しみにしていたのですが体調不良のため、基調講演はNPO法人地域と協同の研究センターの向井忍氏「人口減少社会における持続可能性と協同労働の役割」に変更となりました。

翌日の分科会、私は東京のワーカーズ・コレクティブの二つの連合組織が2年かけて行った実態調査に基づく今後の継続と発展を議論する第6分科会に参加しました。東京は福祉関係のACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合とそれ以外の業種で構成された東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合の2つの連合組織がありますが、両方の83のワーカーズ・コレクティブを対象にした調査です。課題は40代以下の若い人が入りにくい、人材不足、事業の継続や安定化、社会保障をどうするかなどがあり、解決策として生活クラブ生協との連携や会計・広報・経営などの専門機能づくりなどが挙げられていました。

第3分科会は「共に働く『テキトリーな働き方のすすめ』」がテーマで滋賀県にある東近江圏域働き・暮らし応援センターの野々村光子さん、はたらっく・ざまの岡田代表、生活クラブ東京の村上専務からの3つの報告がありました。テキトリーは「自分に適している仕事（適当）を自宅に帰って缶ビール1本飲めるゆとり（テキトリーさ）が大事」の意味。応援センター『tekito-』は、住み慣れた地域で働き暮らすことを伴走型で支援しているそうです。生活クラブ東京は困窮者自立支援制度の家計相談を府中市で受託。他にも居住支援や農福連携で生活クラブの農園で障害者のB型事業所との提携が始まっているが、それらを今後ワーカーズ・コレクティブと連携してすすみたいとのこと。野々村さんのひきこもりの人には内職を用意して働きかけることも大事という話を岡田さんから聞き、こちらの分科会にも参加したかったなと思いました。

(松川 由実)

## 第1分科会 成立間近！「労働者協同組合法」

長年の法制化運動が「労働者協同組合法」という形でいよいよ国会への上程が間近に迫っている。全国大会の度に議論されてきたテーマだが、今回は現実味を帯び、報告者、参加者ともに熱量を感じるものとなった。

前半の学習会では、ワーカーズ・コレクティブと法人格、法制化運動の歴史、求めてきた法人制度、「労働者協同組合法」制定化の経緯説明、この法律の目的に盛り込まれた内容とそのポイント、法律の概要について情報共有を行った。

後半のパネルディスカッションでは、「労働者協同組合法」の制定に関わってきた日本労働者協同組合（労協）とWNJ、NPO法人共同連、協同組合の研究者である藤井先生（立教大）の4名をパネリストに迎え、「この法律の課題兼可能性をどうとらえているのか」、「この法律を使ってどのような展望を描いているのか」の報告があった。

今回の法律では、組合員による「出資」「意見反映」「従事」の原則と「労働契約」を結ぶ労働法規の遵守が盛り込まれていることでワーカーズ・コレクティブにとっては、「雇用契約、社会保障、最低賃金」といった壁に対峙することとなり、藤井氏（WNJ）からは「選択ができる法人格が一つ増えると捉え、それぞれのワーカーズが選択する。今後も一般的な労働者性にとらわれることなく「雇われないもうひとつの働き方」の旗は降ろさず、W.Co運動は継続する」と発言。生まれも、育ちも違い、それぞれの事情と思惑がある中で3団体が、法制化運動を一緒に進めてきたのは「共に働く、組合員一人ひとりが一票を持ち対等な働き方」の社会化である。今後の展望については、成立後の先にあるであろう「社会的労働組合」を見据えているとの発言もあり、法制化運動の正念場はまだこの先にあることを感じました。

(上田 祐子)

